

ガドリニウム造影剤検査(造影 MRI)説明書

[造影剤とは]

造影剤を使用することで血管や腫瘍など血流の豊富な組織や尿路が見やすくなり正確な診断につながります。造影剤はたいていの場合副作用はありませんが、人によっては下記に示すようなアレルギー等の副作用が出現することがあります。

[造影剤の血管外漏出]

血管外漏出とは造影剤注入時に、造影剤が血管の外にもれることです。通常、造影剤を注入する前に血管内に注射針がきちんと留置されているかを確認してから造影剤を注入しますが、検査によっては自動注入器を使用して行うために血管に負荷がかかり造影剤が血管外にもれることがあります。頻度は約 0.05%とされています。血管外漏出が少量であれば、湿布などで自然になおりますが、多量になると処置が必要な場合があります。

[造影剤の副作用]

1. 軽い副作用

吐き気、かゆみ、くしゃみ、咳、咽喉頭（のど）違和感、動悸、頭痛、発疹などです。造影剤投与直後に現れることが多いですが、検査の 1~2 日後に発疹や頭痛が現れることもあります。これらは治療を要さないか、1~2 回の投薬や注射で回復するものです。このような副作用の起こる確率は約 100 人につき 1~2 人、約 1~2%です。

2. 重い副作用

呼吸困難、ショック、意識障害、血圧低下、急性腎不全などです。このような副作用は、入院の上での治療が必要です。このような副作用の起こる確率は、約 1 万人につき 5 人以下、約 0.05%以下です。非常にまれですが、病状・体質によっては 100 万人に 1 人の割合（0.0001%）で死亡する場合があります。

また、腎機能が低下している方や透析を行っている方に造影剤を投与すると、皮膚の腫脹、発赤、疼痛などが発症する NSF（腎性全身性繊維症）が報告されています。進行すると皮膚の硬化などを生じ、関節が拘縮して高度の身体機能障害に陥ります。

[検査前の食事について]

造影検査開始前、約 4 時間程度は食事をお控えください。水分においては、造影剤による脱水を防ぐために水やお茶類をしっかりと摂ってください。ただし牛乳やコーヒーなどの乳製品飲料はお止めください。

[検査後の注意点]

- ・造影剤はおもに尿から排泄されます。水分摂取制限のない方は、検査後しっかり水分をお取りください。
- ・検査後他の検査がなければ、食事はいつも通り摂っていただいて構いません。また、普段通りの生活を送っていただいて構いません。
- ・検査数時間~数日後に頭痛、発疹、皮膚のかゆみ、尿が出にくいなどの気になる症状があらわれたら、当院に来院していただくか当院までご連絡ください。
- ・授乳中の方は検査終了後 2 4 時間(肝臓検査の方は 4 8 時間)授乳をお控えください。

[検査費用について]

- ・ 3 割負担：約 1 1 0 0 0 円（肝臓検査の場合：約 1 4 5 0 0 円）
- ・ 1 割負担：約 3 7 0 0 円（肝臓検査の場合：約 4 8 0 0 円）

緊急連絡先

TEL：(0877) 23-5555

内線：1126